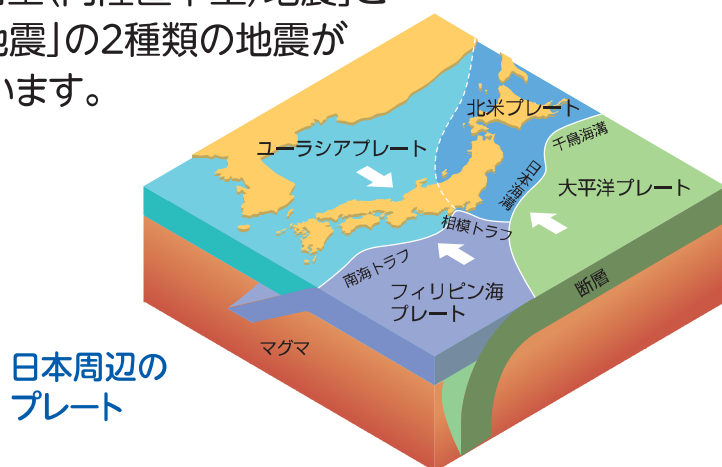


災害発生のしくみや災害の形態

地震

地震の発生について

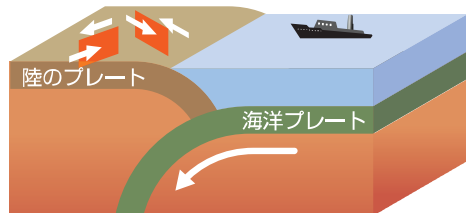
日本列島の周辺は、4つのプレート(板状の堅い地殻)があり、年に数センチの速度で一定の方向に動いています。プレートの境目でのプレート同士の運動が地震を引き起こす原因です。日本では、主に「活断層型(内陸直下型)地震」と「海溝型地震」の2種類の地震が起こっています。



日本周辺のプレート

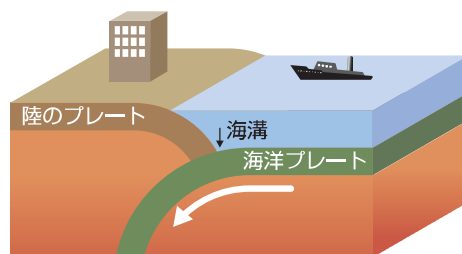
活断層型(内陸直下型)地震

陸地の地殻もプレートの運動によりいたるところに「ずれ」が生じています。これらのずれは、いつかずれ動く可能性があり、「活断層」と言われています。この活断層のずれ動きが地震となります。

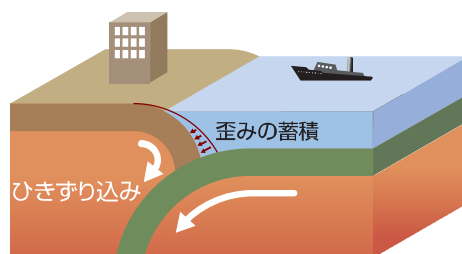


海溝型地震

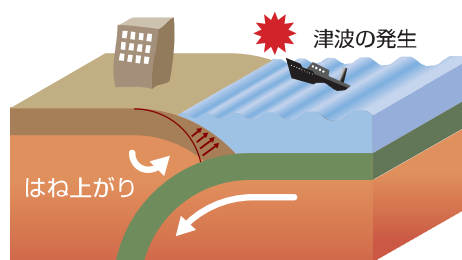
海溝側のプレートのもぐりこみにより大陸側のプレートが引きずりこまれ、境目にひずみがたまり、限界に達すると元に戻ろうとしてはね上がり、地震が発生します。



海洋プレートが陸の下へ沈み込みます。



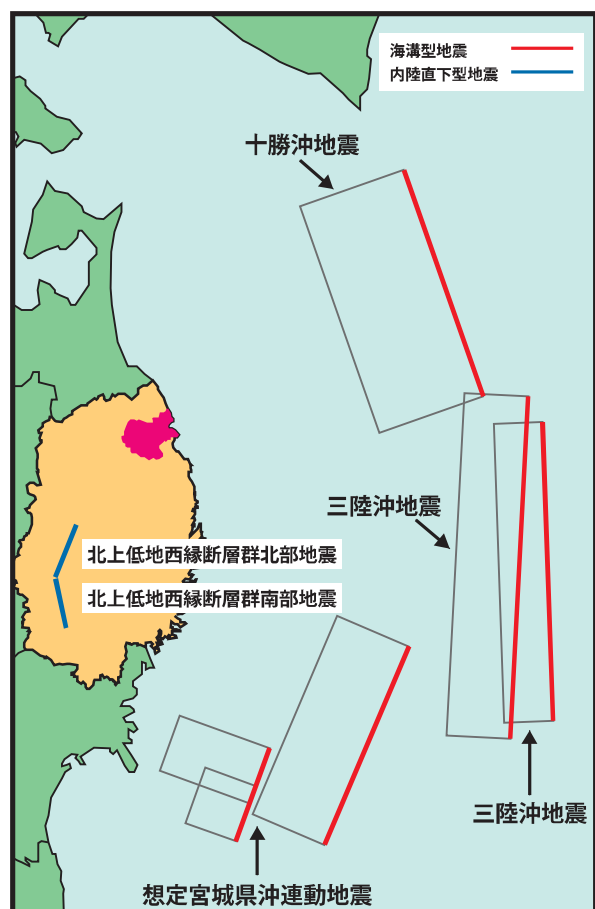
陸のプレートの先端部分がひきずり込まれ、歪みが蓄積します。



歪みが限界に達し、陸のプレートの先端部分がはね上がって海溝型地震が発生します。

久慈市周辺の想定地震

久慈市周辺の「海溝型地震」と「活断層型(内陸直下型)地震」は下図に示す震源が想定されています。



震度とマグニチュード

「マグニチュード」は、地震そのものの大きさ(規模)を表すものさしです。

一方「震度」は、ある大きさの地震が起きた時のわたしたちが生活している場所での揺れの強さのことを表します。

マグニチュードと震度の関係は、例えば、マグニチュードの小さい地震でも震源からの距離が近いと地面は大きく揺れ、「震度」は大きくなります。

また、マグニチュードの大きい地震でも震源からの距離が遠いと地面はあまり揺れなく、「震度」は小さくなります。

